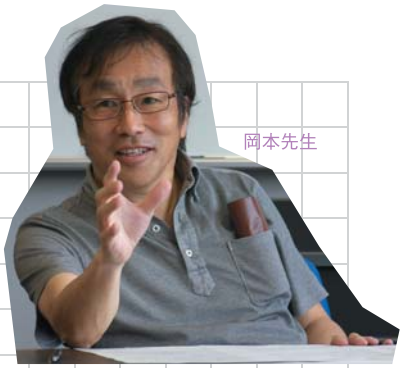
環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



岡本先生

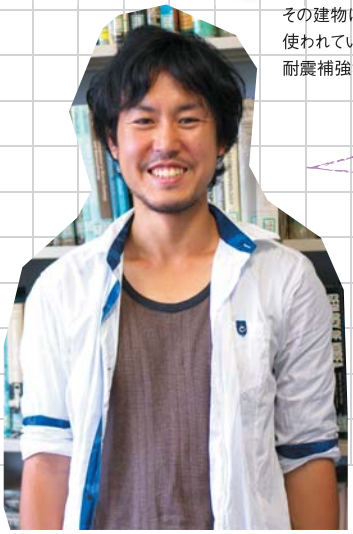
【今回の授業】地理学研究史セミナー　岡本 耕平教授

かれこれ20年以上続く地理学研究史セミナー。担当する岡本教授は、名大地理学教室の卒業生。「我々の学生時代は学生たちが自主勉強会を開いて英語圏の最新論文を読んで議論していたが、私が名大に赴任した時には、そういう場がなく、これはまずいなと」。これが授業のきっかけとなり、今は、学生それぞれが選んだ海外の論文を、みんなで読み、議論している。

授業は、都市地理学、経済地理学、文化生態学、災害研究、観光学・・・と、同じ地理学でも専門の違う学生たちが大きなテーブルを囲む。今週は、人間環境関係研究の枠組みの史的変遷、次週はコンパクトシティの批判的検討と、自分の研究とは関係のない論文を読むことも多い。

「一番重要なのは、たとえ専門は違っても、幅広い内容の海外の論文をじっくり読み込むうちに、関心が広がり、質問したり議論する能力が養われていくこと」と岡本教授。さらに読めば読むだけ、外国語にも馴染んでいく。「将来、研究者や教員になっていく学生たちだからこそ、専門だけにとらわれず、幅広い知識を身につけてほしい」と願っている。

1950年に文学部史学科地理学講座としてスタートした地理学教室。当時のキャンパスは名古屋城内にあり、その建物は今も明治村で見ることができる。その時代から使われていた「文学部備品一号」が、この存在感ある机。耐震補強されて受け継がれている。



崎田 誠志郎さん（D3　文化生態学・漁業地理学）
Seishiro Sakita

総合学問としての地理学の特徴を体現するのがこの授業。こういう発想があるんだ、こんな関心を持っているんだ、専門が違い、一見、関係なさそうなことも、地理学という同じテーブルの上で議論できる。それは非常に貴重な時間で、とてもいい思考訓練になっています。今回の論文は、人間と環境の関係性を見る地理学の根幹として、押さえておいた方がいいと思って選んだものです。私はこの授業で最年長なので、後輩に役立つように、という意図もあって選びました。